

# 株式会社アーク

機動性の高いインプレミアC72の導入で  
細分化された学校関連の大量発注に 대응。



取締役部長  
志知 悟史 氏

「インプレミアC72の活用により、デザインから出力まですぐに対応することができます」

2006年の創業時から、内製する印刷はオンデマンドに絞り、オフセットは協力会社に任せてきた株式会社アーク。あえてオフセットのフィールドでは勝負せず、オンデマンドの機動性の高さに、自社の優れたデザイン力と、最終工程としてクオリティを決定する製本・後加工の技術を掛け合わせることで、きめ細かく顧客のニーズに添えている。今年、小ロット多品種の大量発注を受けたことで、インプレミアC72（フルカラーデジタルプリンティングシステム）2台を追加導入した。その背景や効果について、志知悟史取締役部長、和田祐介統括室長にお聞きした。

## オンデマンド機なら 仕事の幅が制限されない

「お客様の悩みを解決する『何でも屋』になりたい」  
そう熱を込めて語るのは、㈱アークの志知部長だ。この目標実現に向けて、同社は創業時に、内製する印刷をオンデマンドに絞った。  
「高額なオフセット印刷機を導入すると、固定費を回収して利益を上げることが最優先になってしまい、それが仕事の幅を制限してしまいます。また、オフセット印刷は、品質の高いものを

提供することが当たり前で勝負するのが難しい。そこで、特殊な加工をプラアルファができる仕事に注力し、仕事の幅を広げました」  
企画・デザインを強みとし、オフセット印刷は協力会社に外注するとともに、製本や後加工などの最終工程は自社で仕上げるシステムを作っている。製作の始まりと終わりを押さえることで、品質に責任を持てるようにしている。  
「お客様には、何か悩みがあれば、全て当社にお声をかけてくださいと話しています。服飾でも商印でもPOPでも、

何でもアークにお願いすれば質の高いものを提供してくれると評価されるようになってきています」  
そのため、製本加工は、極小サイズから四六全判までの断裁、各種の折りや綴じ・スジ入れ・ミシン入れ・穴あけ・角丸・マール巻・クロス巻・帳合が可能。さらに製袋・ノベルティグッズ制作に加え、手作業加工技術に熟練した内職者の部署を設け、箱折りや袋詰め・シール貼り・アセンブリ（組み立て）・挟み込みなど幅広く対応している。手間がかかる部分も安心して任せられる体制が整っていることが、

## 2台のインプレミアC72 追加導入で「全国」に拡大した 仕事に対応

アークの強みとなっているのだ。  
オンデマンド印刷についても、手間がかかる部分を付加価値とすることで、競争力を高めている。同社のオンデマンド印刷のメインになっているのが、学校関連の教材作成を行う案件だ。  
和田統括室長は、「学校」との都合や、生徒さんの事情に合わせたきめ細かい印刷物の作成や受注に対応しています。小ロットの発注が多く、小回りの利くオンデマンドの方が素早く対応でき、コストも抑えられることから、ここ数年で発注が伸びています」と、オンデマンド印刷の好調ぶりを語る。これまでは、インプレミアC71と、インプレミア1052で刷っていたが、近年担当エリアが全国へと広がった。従来の機械台数では生産スピードが追い付かないことから、インプレミアC72（フルカラーデジタルプリンティングシステム）2台の追加導入を決

めたという。インプレミアC72を含めたオンデマンドは現在、学校関連の仕事だけでなく、名刺、DM、封筒などの小ロット案件の受注拡大にも大きく寄与している。  
インプレミアC72の導入に合わせて、和田統括室長はバックヤード業務の改善にも取り組んだ。

「学校で使われる印刷物は、受注・納品も学校ごとの事情に合わせて、指示通りに行うための対応が必要となります。インプレミアC72で印刷業務が強化されたことにより、お客様に納得いただける全社的な受注システム見直しへの取り組みや、納品体制の強化も併せて行うことができました」

## KOMORI機は セルフメンテナンス性も高い

アークの事業を支えるオンデマンド機は現在、カラーが4台、モノクロが1台あり、全てKOMORI機だ。志知部長は、理由を次のように述べた。

「これまでに他社メーカーの機械も導入しましたが、学校関連の仕事をはじめ前から、用紙詰まりなどのトラブルに悩まされてきました。紙が詰まったときに、手で取り除ける機構になっておらず、サービスに対応してもらうまで、作業をストップせざるを得ないこともありました。KOMORI機は紙詰まりが少なく、詰まった場合には手で取り除ける機

構になっているなど、セルフメンテナンス性が高いことも魅力です。また、封筒の仕事でも、KOMORI機は専用ユニットがあり、販売店ごとの名前を封筒に追い刷りするの簡単です」

さらに志知部長は「印刷後の反りが少なく、製本しやすい」などの利点も挙げ、和田統括室長は、インプレミアC72の機動力を高く評価し、「新しい需要の獲得にもつながっている」と語る。  
小ロット印刷は、ネット印刷との競合にもなるが、そのことを志知部長はどのように捉えているのだろうか。

「オンデマンド印刷ができるからアークに振るのではなく、企画から製本、納入まで一貫した質の高い生産ができるからアークに頼もうと思ってくれているお客様が増えています。ネットで制作の意図やデザインの意図がうまく伝わらないという声もありました。お話をいただければすぐに企画やデザインの対応ができ、厳しい納期の相談にも乗ります。そんな体制ができていくことが受注増加につながっているのでしょう」

アークでは、インプレミアC72をさらなる受注拡大に活用しようと考えている。得意とするデザインから枝葉を広げ、さまざまなサービスを提供するメーカーになるという目標に向けて、アークは日々、躍進を続けている。



統括室長  
和田 祐介 氏  
「インプレミアC72のオペレーションパネルは、タッチの反応が良く、操作が快適。導入後、仕事の効率が高まっています」



「インプレミアC72を入れたことで、全国規模の発注に、確実に対応ができるという効果もあります」と、志知部長。また、和田統括室長は「他社と戦っていくためには、名刺一つにしてもレスポンスよく提案していくことが大切」と語り、インプレミアC72に期待を寄せる。



本社 / 岐阜県安八郡神戸町川西94  
http://www.arc-dp.jp/  
TEL / 0584-27-5447

